

キャベツに 今後発生する病害虫

11月の農作業

■ヨトウムシ

- 幼虫は淡い緑色でほぼ透明。葉裏に群がって集団で加害する。
- 昼間は地際の土中やキャベツの結球内に隠れ、夜間現れて摂食する。
- カスリ状になる食害から始まり、その後被害が進むと葉脈を残し網目状になる。
- 卵は葉裏に産み付けるので注意する。
- 若齢幼虫は葉をゆすると糸を引いて落下するので目につきやすい。



ヨトウムシ



ヨトウムシによる食害

【防除】

- 葉裏を加害するため葉裏にも薬剤が十分付着するように散布する。
- 集団でまとまっている若齢期のうちに徹底して防除をする。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
エルサン乳剤(*毒劇)	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内

■カルシウム欠乏

一般的にカルシウム欠乏症の場合、葉の先端部ではなく両脇から症状が出ることが多い。その後、枯死斑の現れる部分が拡大し、上位葉の生育も抑制される。土壌中で絶対量が不足して発生することは少ないが、土壌中のチッソやリンの過剰により吸収バランスを崩して発生することがある。この場合、土壌中にカルシウムがたくさんあっても発生する。体内の再移動は少ないため、常に供給されている必要がある。また、土壌が乾燥したときに発生が助長される。



カルシウム欠乏症の症状

【対策】

チッソやリンの過剰な施肥を避け、土壌の過乾燥にも注意する。特にチッソの過剰施肥を避ける。pHの低い土壌では炭酸カルシウムや苦土石灰の施用を行う。

ホウレンソウに 今後発生する病害虫

11月の農作業

■アブラムシ類

- 新葉に繁殖し、吸汁被害を受けた葉は縮れて奇形になることがある。
- 発生が多いと生育が極端に悪くなる。
- 短期で高密度に繁殖するが、発生初期は見過ごしやすいため注意する。
- 縮れて変形した葉を見ると成・幼虫が多数寄生している。
- 晴天が続き、雨が少ないと発生しやすい。



アブラムシ被害

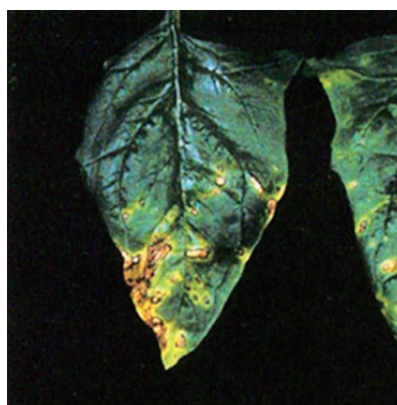
【防除】

- ウイルス病を伝搬するので、被覆資材等を利用し、飛来防止につとめる。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	3日前まで	2回以内

■斑点細菌病

- 秋まき露地栽培の畑で葉身に淡褐色～褐色、周辺が湿潤状の黄色帯を伴った病斑が認められる。
- 症状が進展すると、病斑が葉脈や心葉に発生し、株が委縮することもある。
- 11～12月に発生し、寒さの厳しい1～3月に蔓延する。
- 寒さが厳しいと発生しやすく、大きな被害を受けることがある。



斑点細菌病

【防除】

- 多肥栽培にならないようにし、厚まきは避け、間引き等で風通しをよくする。
- 冬期の低温が発生を助長するので、トンネル栽培を行うようにする。

適用農薬	希釈倍数
Zボルドー	500倍

裏面はキャベツに今後発生する病害虫を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.343 令和元年11月11日発行